

協力団体：ネパール保健省・NPCS (Nutrition Promotion and Consultancy Service\*)

\*ネパールのNGO。社会的弱者や貧困層の栄養改善をはかるため、地域住民への保健教育やNGOスタッフ、行政官への栄養研修を実施する。

協力期間：2006年10月1日～2009年9月30日

支援対象：ネパール保健省、中部・西部地方の5郡（ダーディン郡、カスキ郡、パルバット郡、ナワルパラシ郡、カピルバस्त郡。\*）の全保健行政スタッフならびに女性地域保健ボランティア。

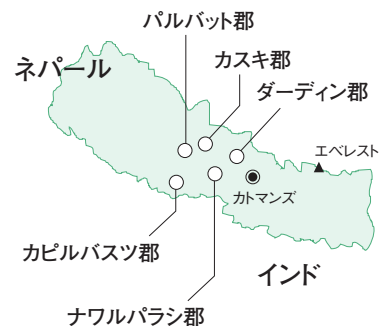
\*マホタリ郡は安全上の観点から2007年7月をもって撤退した。

報告期間：2008年4月1日～2009年3月31日

支援規模：12,347,811円

## 事業の背景と目的

地元で入手できる食材を使った食生活改善を母親に働きかけることで、子どもと母親の栄養改善を図るという「食生活改善アプローチ」は、これまで協力団体のNPCSとともに実施した事業（p12「栄養改善事業」参照）で、その有効性が確認されてきました。本事業では政府保健行政システムにこのアプローチを組み込み、保健所職員や女性地域保健ボランティアの日常的な活動を通して郡全域での食生活改善を進める体制作りを目指します。ネパール政府に対し政府開発援助を実施するJICAとのパートナーシップ事業として実施することにより、事業対象郡のみならず将来的には全国規模での普及を視野に入れた行政への働きかけも行なっています。



## 2008年度の総括

今年度は、対象5郡で活動が行われました。

### 1 地域レベルの保健所スタッフ等への食生活改善アプローチ研修

2006年度に開発した栄養指導教材を利用し、5郡の郡保健行政官、村落に居住する保健所スタッフや女性地域保健ボランティアなど、およそ2,500名を対象に研修（1回平均3日）を実施しました。これにより、当事業の大きな目標であったダーディン、カスキ、パルバットの3郡における「郡保健行政官から女性地域保健ボランティアまで」の研修が全て終了し、カピルバस्त、ナワルパラシ郡では「郡保健行政官と村落保健所スタッフまで」のすべての研修が完了しました。今後は、政府の事業として栄養改善活動が継続されることが期待されます。この目標を達成するため、2009年度の第一四半期は、「郡保健行政官と村落保健所スタッフ」が栄養不良児を把握し、リハビリを行う活動に対し、技術的な支援をしていきます。



ダーディン郡、タクレ村のサブヘルスポストで母親向けの栄養教室で教える事業スタッフのメスカさん（右端）

### 2 栄養不良児の救済

上記の研修の結果として、栄養不良児を把握して救済する例が続き、ダーディン、カスキ、パルバットの3郡では、2008年度は軽度および中度の栄養不良児54名に対して家庭での食事療法によるリハビリ指導を行い、重度の栄養不良児31名は、他NGOが運営する栄養リハビリテーションセンターに搬送し、医学的治療を行いました。2006年の事業開始以来、軽・中度の栄養不良児68名、重度栄養不良児58名が健康を回復しています。具体的に子どもたちが栄養不良から改善されたことで、地域の保健ワーカーも栄養問題にさらに取り組む気持ちを強めています。そうした保健ワーカーの姿勢の変化も、この事業の目指すキャパシティ・ビルディング（能力向上）の大きな成果です。



家庭でリハビリを受けている栄養不良児を訪問する事業スタッフのトリシュナさん（カスキ郡）



保健所スタッフへの研修のようす  
実際の食物を使って研修を行い、村の母親教室で実演できるように指導する。

#### パルバット郡、ホスランディ村落保健所スタッフの声

この研修では、実用的で役に立つ技術や知識を多く学びました。このような研修は学校の先生にも受けてもらって、生徒たちに栄養の知識を広げられれば良いと思います。これからもこうした研修を続けて行って欲しいと思います。